

2019年12月期 第2四半期決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

営業の経過及び成果

当第2四半期連結累計期間(2019年1～6月)は、米中通商問題の動向や中国経済の成長力の陰り、英国のEU離脱協議の難航などによって世界経済の減速懸念が高まる中、国内景気は輸出や生産の一部に弱さが見られ、先行き不安が高まりつつ推移しました。

このような経営環境の中、当社グループでは『クリーン、ヘルス、セーフティ』各市場において掲げた重点施策への取り組みを進めておりますが、当第2四半期は防衛省向け製品防護マスクの納入時期ずれによる減収を主因に、売上高は39億86百万円(前年同四半期比2.5%減)となりました。

利益につきましては、昨年秋より運用を開始した先進技術センターに関わる経費増により、営業利益1億81百万円(同31.1%減)、経常利益1億78百万円(同25.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益1億18百万円(同43.2%減)となりました。

(マスク関連事業)

前期第1四半期に1億46百万円の売上のあった防護マスクの納入が、当期は第4四半期となった一方で、産業用防じんマスク、防毒マスクの販売が順調に推移したことから、当事業の売上高は35億23百万円(同1.7%減)となりました。

また、第2四半期に新製品として市場投入した女性向けの使い捨て式防じんマスク「サカキ式 ハイラック330型／335型」につきましては、女性作業者の顔にフィットするマスクを希望する作業・医療現場のお客様からの引き合いが増えております。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH(コーチ)」については「アクチュアルクリーン(実際の作業時の清浄度)」及び「KOACH」導入による管理・コスト負担の緩和を訴求する営業活動を前期に続き代理店、販売店と協働して行いました。その結果、販売件数は順調に積み上がり前年同四半期実績を11%上回りましたが、小型機種である「テーブルコーチ」「スタンドコーチ」の受注が堅調であるのに対し、大型機種である「フロアーコーチ」の受注が前年対比では下回ったため、売上高は前年同四半期実績を超えるまでには至らず、当事業の売上高は4億63百万円(同8.2%減)となりました。

なお、内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍(かがみないし)」については、後継機種「鏡内侍ⅡG」を予定通り7月に発売いたしました。「KOACH」に加え「鏡内侍ⅡG」の販売にも注力し、当事業の業績拡大に努めて参ります。

連結業績の概要

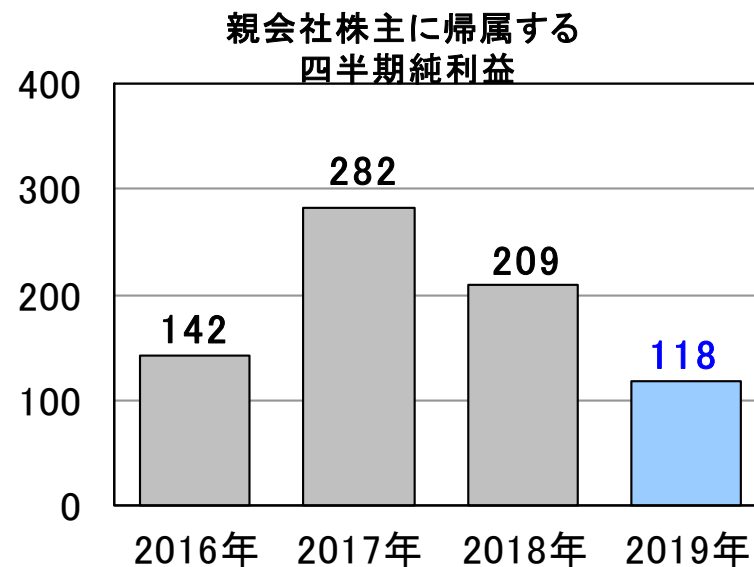
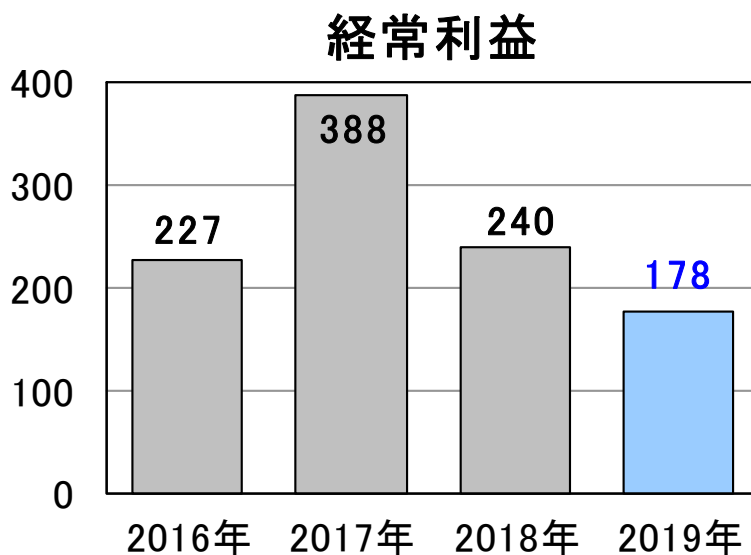
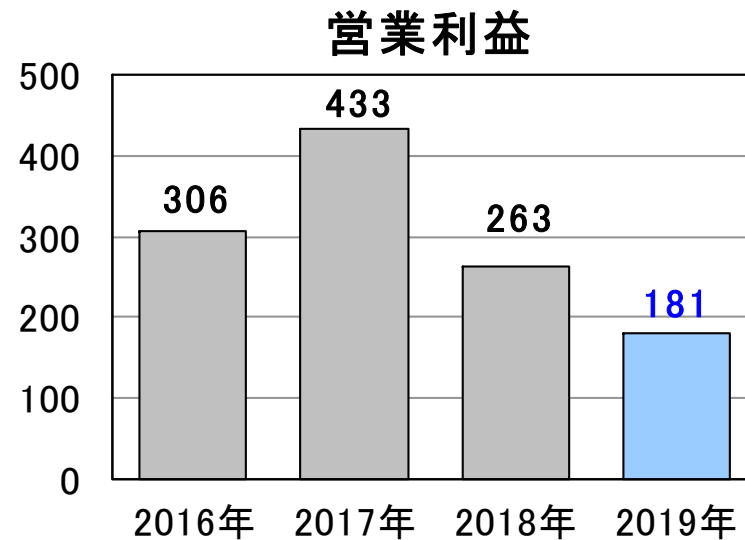
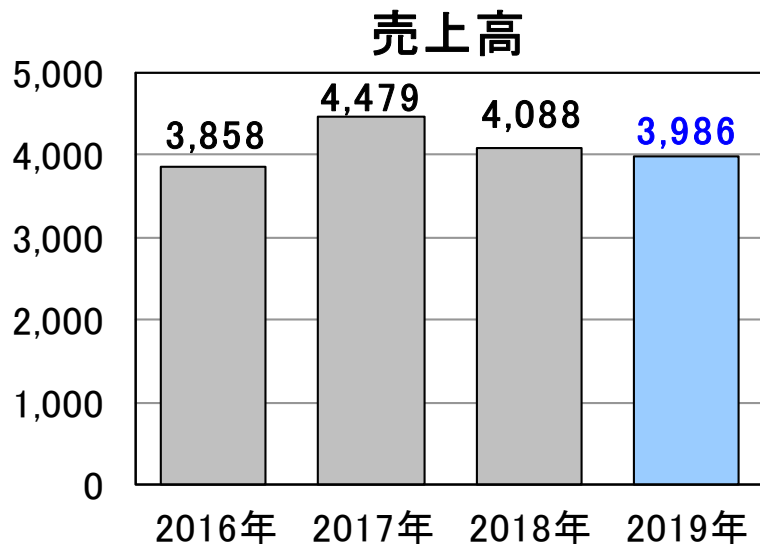
(単位:百万円/端数切り捨て)

	2018年12月期 第2四半期連結累計期間		2019年12月期 第2四半期連結累計期間	
	金額	比率(%)	金額	比率(%)
売上高	4,088	100.0	3,986	100.0
売上総利益	1,916	46.9	1,914	48.0
営業利益	263	6.4	181	4.6
経常利益	240	5.9	178	4.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	209	5.1	118	3.0
1株当たり四半期純利益(円)	41.68	—	23.70	—

	2018年12月31日	2019年6月30日
総資産	18,915	18,224
負債	9,328	8,701
純資産	9,587	9,523
自己資本比率(%)	50.7	52.3
1株当たり純資産(円)	1,911.51	1,902.74

連結売上高・利益の推移（第2四半期）

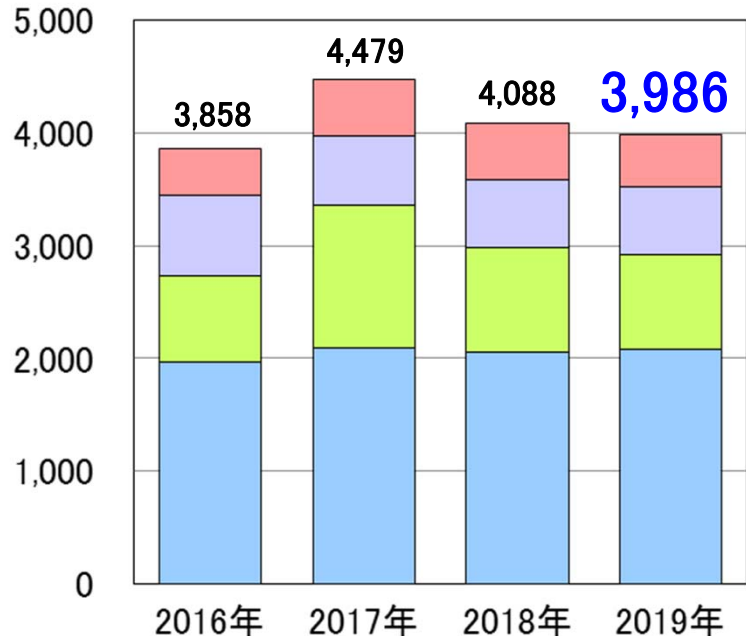
（単位：百万円／端数切り捨て）



連結セグメント別売上高の推移

(百万円)

(単位:百万円/端数切り捨て)



事業の状況	
■ マスク関連事業 (防じんマスク、防毒マスク、マスク関連その他製品)	<ul style="list-style-type: none"> 防じんマスク: 産業向けが順調でした。第2四半期に新製品として市場投入した女性向けの使い捨て式防じんマスクを希望する作業・医療現場からの引き合いが増加 防毒マスク: 産業向けは順調でしたが、前期第1四半期に1億46百万円の売上であった防護マスクの納入が、当期は第4四半期となったため減収 その他製品: 電動ファン付き呼吸用保護具の販売は堅調に推移
■ その他事業 (環境関連事業等を含む)	<ul style="list-style-type: none"> オープンクリーンシステム「KOACH」の販売件数は順調に積み上がり前年同四半期実績を11%上回りましたが、小型機種である「テーブルコーチ」「スタンドコーチ」の受注が堅調であるのに対し、大型機種である「フロアコーチ」の受注が前年対比では下回ったため、売上高は前年同四半期実績を超えるまでには至らず

品目区分	2016年 第2四半期		2017年 第2四半期		2018年 第2四半期		2019年 第2四半期	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
防じんマスク	1,974	51.2%	2,099	46.9%	2,058	50.4%	2,077	52.1%
防毒マスク	752	19.5%	1,256	28.1%	925	22.6%	842	21.1%
マスク関連その他製品	714	18.5%	611	13.6%	600	14.7%	603	15.2%
小計	3,441	89.2%	3,967	88.6%	3,584	87.7%	3,523	88.4%
その他	416	10.8%	511	11.4%	504	12.3%	463	11.6%
合計	3,858	100.0%	4,479	100.0%	4,088	100.0%	3,986	100.0%

※品目別売上高につきましては、子会社による販売がないため、親会社のみ数値を掲載しております。

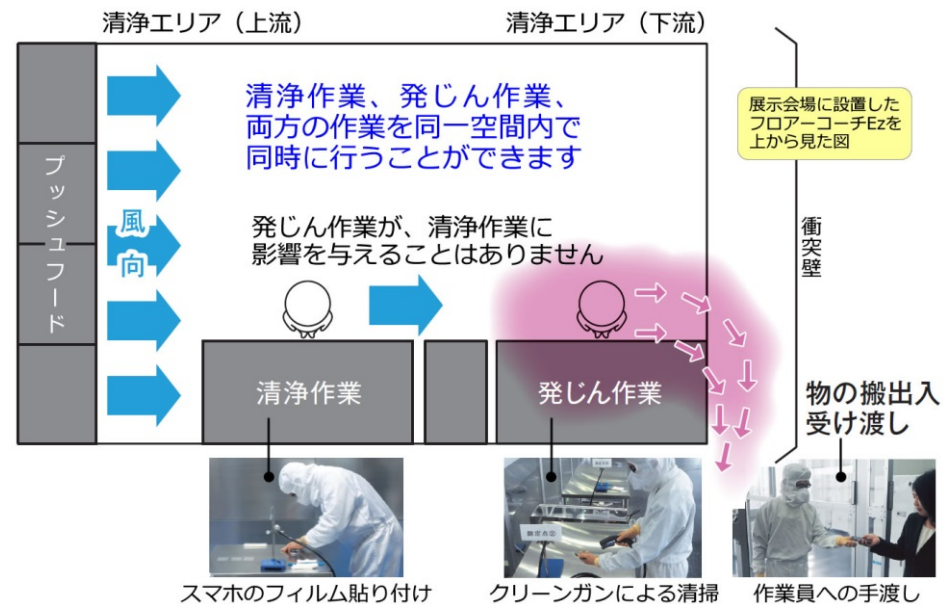
トピックス

◇展示会でアクチャルクリーンを実演

1月に開催されたアジア最大級のエレクトロニクスに関する展示会「ネプコンジャパン2019(東京ビッグサイト)」において、オープンクリーンシステム「KOACH」が作り出す“作業中の清浄度(アクチュアルクリーン)”の実演を行いました。

これまでのクリーンデバイスは、清浄空間内で一度発じんしてしまうと、その汚れが全体に拡散・滞留してしまうため、再び清浄度を回復するには、長い時間が必要でした。しかし「KOACH」は、空間内の粉じんを綺麗な空気でコロテンのように一気に押し出し、清浄空間を素早く回復することが出来る唯一のクリーンデバイスです。

そうした「KOACH」独自のクリーン化技術“アクチュアルクリーン”をご体感して頂くため、展示会では、同じ清浄空間の中で「清浄作業」と「発じん作業」が同時に行える様子を实演しました。(下図ご参照)



同展示会では「KOACH」ならではの気流コントロール技術、移動できるISOクラス1空間の実演など、クリーンデバイスの常識を超えた「KOACH」の利用法についてのご提案も行いました。その結果、これまでご採用頂いた以外の分野の方々からも多数のご質問を頂くなど、「KOACH」事業の今後益々の拡大を予感させる展示会となりました。

◇女性向け使い捨て式防じんマスクを発売

女性の社会進出が進み、最近では保護具の着用を要する製造業や建設・土木業の現場においても女性（溶接女子、建設女子、土木女子など）の活躍する姿が見られるようになってきました。しかし、現在保護具は、成人男性を対象としたものが主流で、粉じん等の吸入防止用として使用される防じんマスクにおいても、女性の顔に合ったサイズや女性が使いやすく設計された製品は、まだまだ少ないのが実情です。

当社は健康障害防止の役割を担う保護具である防じんマスクのメーカーとして、女性の作業者の方々にも「安全」「安心」「快適」にマスクを使用して各作業現場で大いに活躍していただくことを目的に、多くの粉じん職場で使用されている当社製使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズをベースとして、厚生労働省の国家検定合格品であり、かつ女性が着用、使用しやすい新製品「サカキ式ハイラック330型／335型」を開発し、4月より発売を開始しました。



ハイラック330型
(標準型)



ハイラック335型
(排気弁付き)

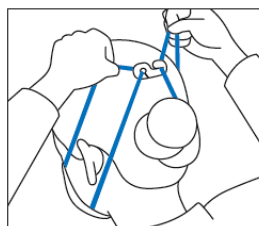


FFリップ

※爽やかさをイメージさせるラベンダー色を採用

【主な特長】

- ①安心の国家検定合格品
・330型：第TM729号、335型：第TM730号
- ②女性にもフィットするFFリップ
・3次元構造のFFリップが、顔とマスクの間にすき間が生じるのを抑えます
- ③ソフトな着け心地のしめひもTKフック
・TKフックを支点に“上ひも”、“下ひも”別々に締め具合を調整することが可能



TKフック



耳にかかる「上ひも」だけの張り具合を調整できます

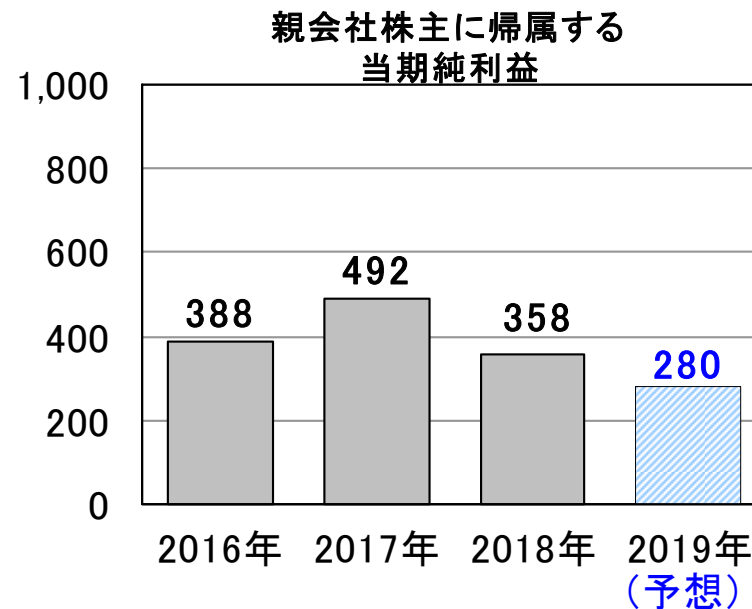
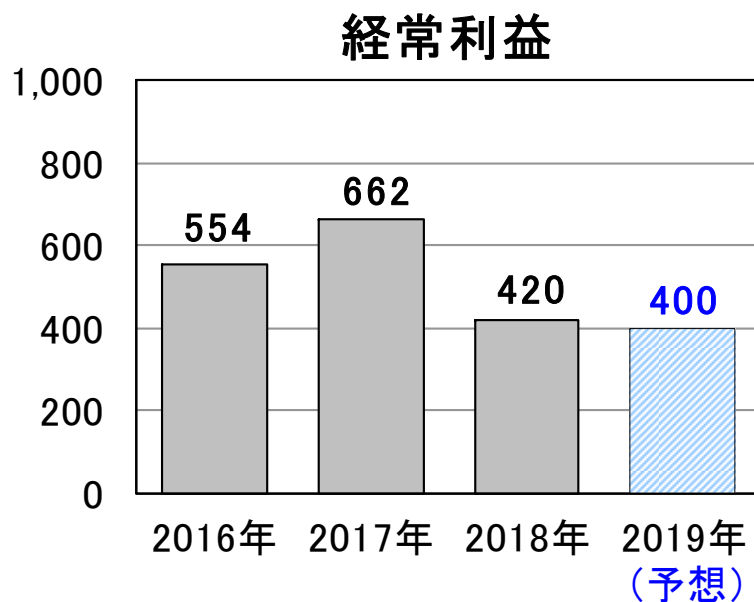
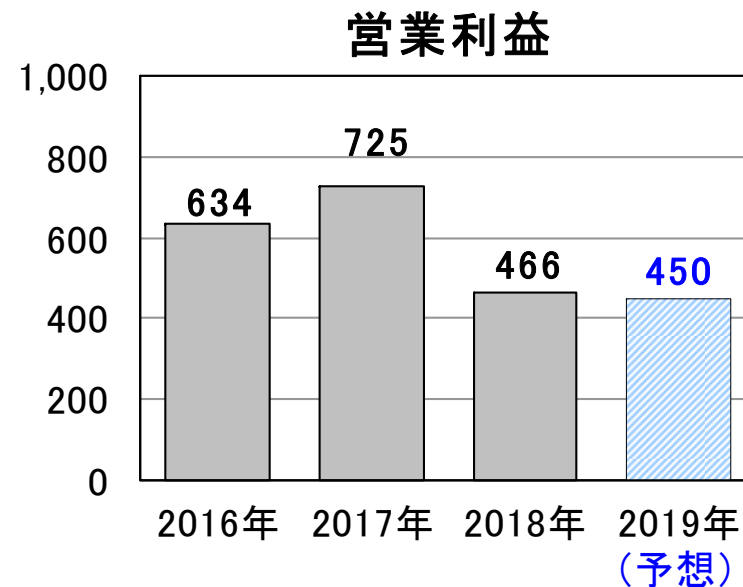
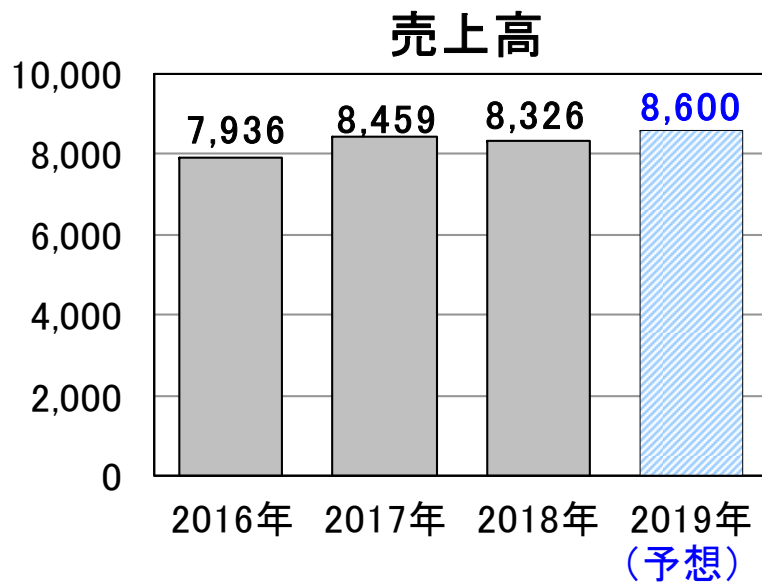


髪形に応じて「フック」の位置を変えることができます

今後も当社は、男性、女性に限らず働く全ての方々が、「より安全」で、「より安心」して、「より快適」に作業ができる産業用マスクの開発、普及に努めて参ります。

通期連結業績予想

(単位:百万円/端数切り捨て)



※2018年12月期の連結業績予想につきましては、2019年2月12日に公表いたしました予想からの変更はありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、「2019年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」発表日(2019年8月2日)現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様自身のご判断で行うようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp/>